

金沢

古地図めぐり

く 東山・長町・石引エリア く



A

B

C

D

旧城下図

0 200m



東山エリア

寺院群と茶屋街を歩く

石引エリア

御茶屋街の中を寺院群を歩く

長町エリア

武家屋敷街を歩く

① 大野庄用水

前田利長の家臣富永佐太郎が天正年間(1573～92)に開削した、金沢最古の用水とされる。現在の取水口は尾川板橋の上流右岸で、河川敷を暗渠で通り新橋上流で開渠となる。長町武家屋敷数箇道を経て尾川河川に注ぐ、延長約10.2kmの用水である。鬼川、御御川とも呼ばれ、金沢城を築くときに、城下まで木材を選んだとも伝えられる。

野村薬師石

② 辰巳用水

寛永8(1631)年の大火の翌年、3代前田利常が辰巳原四郎に命じて造らせた用水で、玉川上水、箱根用水などとともに、国内有数の古い用水である。また、兼六園の曲水の主要な水源として利用されている。平成22(2010)年に、東若取水口(上辰巳町)から兼六園までの約11kmのうち流路が変更されている約8.7kmが国の史跡に指定された。

辰巳町地内石碑

③ 西内惣構跡



主計町緑水堀

④ 西外惣構跡(一部、鞍月用水)

慶長15(1610)年、3代前田利常が龍原出羽守一孝に命じて掘らせた金沢城の外惣構で、城の西側にある。本多町3丁目から香林坊を通り長町の鞍月用水に至り、同用水と共用して浅野川まで、約2.8kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。



香林坊2丁目御園

⑤ 東内惣構跡

慶長4(1599)年、2代前田利常が客将高山右近に命じて掘らせたと伝えられる城下町東側の内惣構。小尻谷取付近から始まり橋場町を経て浅野川まで、約1.3kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。



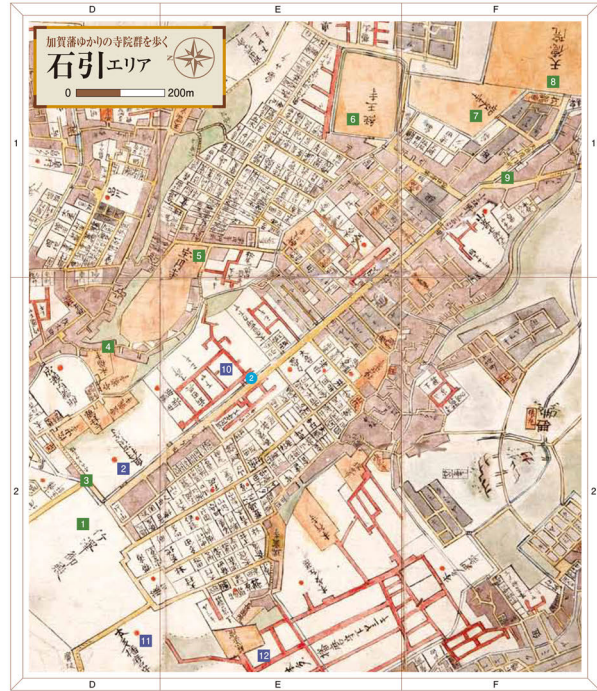
橋本橋道標

⑥ 東外惣構跡

慶長15(1610)年、3代前田利常が龍原出羽守一孝に命じて掘らせた城下町の外惣構で、城の東側にある。八坂から材木町を経て浅野川まで、約1.4kmにおよぶ。城側に土居を盛り、竹藪などの緑地帯を設けていた。



源太郎川合渡地点



1 尾山神社 (金沢城金谷御殿跡地)

旧加賀藩主が藩主の居館や隠居所であった金沢城金谷御殿跡地に、明治6(1873)年に建てた神社。卯辰八幡宮に祀られていた。祭神は前田利家の御神堂を遷した、祭神は前田利家と夫人まつである。明治8(1875)年建立の3割アーチ屋根門の神門は国指定重要文化財。

2 石川四高記念文化交流館(専修)

寛政3(1792)年に現在の高六地区に建てられた藩校の文学校修徳堂と武学校経武館が、文政5(1822)年3月にこの地に移転し、明治3(1870)年に廃止されるまで、教育の拠点となった。明治19(1886)年、全国5地区に1つだけ残った高六中学校を設立し、中学校校舎が公布され、翌年第四高等学校がこの地に開校、明治27(1894)年第四高等学校(西高)と改称された。

3 金沢市足軽資料館(兼庫)

加賀藩の足軽であった高西家清水家の2棟を修築保存展示している。加賀藩の足軽屋敷は一戸建てで、屋敷の周囲には生垣を回し、内側に植木が植えられていたことから、その様子が再現されている。高西家の足軽屋敷は、加賀藩の足軽飛脚の屋敷であった旧早道町(現・金沢市南川2丁目)に残され、平成6(1994)年まで住居として使用されていた。清水家の足軽屋敷も、高西家と同じく旧早道町(現・金沢市幸町)に残されていたもので、明治時代以降も代々子孫が受け継ぎ、平成2(1990)年まで住居が続けられていた。

4 中央小学校(村井又兵衛)

加賀藩年寄役井村家(加賀八家 1万6500金石)の屋敷跡地。初代又兵衛長頼は天文12(1543)年尾張国菟子村に生まれ、12歳で藩前田利家の兄利久に仕えたが、翌年から利家に仕えた。以来利家に従い、数々の戦役に出陣し、天正19(1591)年従五位下後守に叙任し、慶長4(1599)年利家没後その夫人方春院が子へ入養として赴く時、これに従った。子孫、代々年寄役として藩に仕え、前田家創業以来の功臣の家柄である。

5 金沢市文化ホール(前田主税・今枝内院)

前田主税家(2450石)、今枝家(1万4000石)はいずれも人持組に列する藩士。今枝家は人持組の中では最高格の家柄であり、美濃国の出身で、稲葉通朝、織田信勝、羽柴秀吉、羽柴秀俊に仕えた。2代前田利長に招かれ、代々家老職を務めた。また、今枝近基は5代前田綱紀の侍役も務め、歴代藩主の中でも名を言えたと讃えられた功臣といえる。

6 玉川公園・三谷産業(奥九郎左衛門)

加賀藩年寄役長家(加賀八家 3万3000石)の屋敷跡地。長家の遠祖は源頼朝の御家人長谷部信連で、代々能登守護島山氏に仕えた。天正5(1577)年上杉謙信が能登に侵攻、長一氏は没落したが、一人生き残った連は織田信長を頼り、明和15(1800)年信長が能登島平島を襲った。翌年、前田利家が能登に入陣すると、その力になった。以後、代々前田家に仕えた。

1〜3まで、およそ2.3km

7 野田家

【MAP 長町D-3】

8 高村家

【MAP 長町C-3】

9 松ヶ枝緑地(中川式部)

【MAP 長町B-3】

10 犀川神社(宝久寺)

【MAP 長町D-4】

11 兼六園(竹澤御殿)

12代前田斉広は文政5(1822)年、隠居後として竹沢御殿を建造した。この年、斉広の依頼を受けて奥州白河藩主の松平定信は「兼六園」と命名したといわれている。13代斉春は斉広の死後、竹沢御殿を取壊し、近々地をあげ、姿の良い木を植えるなどして、庭を整備・拡張し、ほぼ現在の回遊林泉式庭園の形となった。

12 金沢医療センター(奥村河内守)

加賀藩年寄役奥村家(加賀八家 1万7000石)の屋敷跡地。奥村家の祖、奥村永福は尾張国菟子で前田利家の父春家、兄利久に仕えた。代々年寄役として藩に仕え、前田家創業以来の功臣の家柄である。屋敷は初期、金沢城内にあったが、後に、この地に移転し、明治を遡った。明治以降は陸軍南院病院、国立金沢病院を経て現在に至る。

13 八坂(ホウダウ坂)

昔、付近の木々が小立野に通う道がへちあったことから、またはたぐさあったことから、八坂という名がついた。宝篋寺があったことから宝篋寺坂とも呼ばれた。また、八家奥村伊予守屋敷の横の坂であることから、伊予殿坂とも呼ばれた。

14 木曾坂

宝田寺の麓門にある坂なので、裏門坂とも呼ばれる。木曾の山中のような険しい坂なのでこの名がついたと伝えられる。

15 護国山宝円寺

曹洞宗の寺院。天正11(1583)年加賀藩前田利家が創建した。前田家の菩提寺。越前市(現・福井県越前市)に利家が入部したと伝わる土佐前田家に帰任して、明和15(1801)年能登に入部後、相商を遂げ七尾山門寺(現・長崎寺)を開山し、今の金沢に移った際本寺を開山した。利家と恵徳が祀られて見えた。死を覚悟して自決を望み定めた場所と伝えられる御影堂と御堂がある。

16 寿福山経王寺

日蓮宗の寺院。慶長6(1601)年3代前田利常の生母である寿福院の女家の菩提寺である。越前市(現・福井県越前市)の経王寺より上人を2世として招いて住持とした。寛永8(1631)年江戸で没した寿福院の菩提寺が行われたが、その直後の金沢大で延焼し、正保4(1647)年寿福院の1回忌に利常によって再建された。

17 龍宝山如来寺

浄土宗の寺院。天正年間(1573〜92)に越前市(現・富山県富山)に創建された。のち越中富田を経て金沢の卯辰山に移り、寛文2(1662)年現在地に移転した。徳川家康を祀る。秀忠・家宣・家継・家重などの徳川家の位牌が安置されている。

18 金龍山天徳院

曹洞宗の寺院。3代前田利常の夫人の珠姫(2代将軍徳川秀忠の奥)の菩提寺として、元禄10(1623)年に建立され、夫人の法号である天徳院と名付けられた。現在の境内地はより縮小されているが、山門(国指定有形文化財)などの風格は当時の様子が見え隠れする。

19 下馬地蔵

【MAP 石川F-1】

20 紫錦台中学校(前田綱下ナシナ)

【MAP 石川E-2】

21 石川県立美術館・石川県立歴史博物館(本郷御守)

【MAP 石川E-2】

22 本郷・鈴木大拙館(本郷御守ナシナ・本郷御守ナシナ)

【MAP 石川E-2】

凡例 (画注) ■現存 ■跡地 (用水・惣領跡見方ポイント) ●大野庄用水 ●辰巳用水 ●西内惣領跡 ●西外惣領跡 ●東内惣領跡 ●東外惣領跡 ①休憩所 (観光案内所)

